

人ごとに其の宝を有するに若かず

①宋人に玉を得  
手に入れた  
し者有り。②諸を司城子罕に献  
いた  
が  
これ  
差し上げた

③ 子罕受け は  
受け取ら なかつた  
ず。

④ 玉を献する者曰はく、「以つて玉人に示すに、差し上げた。」  
「言うことには、この玉を玉細工職人見せる」と

玉人 玉細工職人

以つて宝と為す。 した  
『以為』おもへらく……、と思う。 だから どうしても これ さしあげたい  
⑤故に 敢へて 之を献ず。』と。

爾は玉を以つて宝と為す あなた する

もし 私 与えれ どちらも 失う のだ  
若し 我に与ふれば、皆宝を喪ふなり。

⑧ 人ごとに其の宝を有するに若かず。」と。  
それぞれ それぞれ 持つてある こと  
及ぶものはない(一番よい)

⑨ 故に宋國の長者有徳者曰はく、「子罕は宝無きに非ざるなり。」  
だからが 言うことには 無いということではないのだ

⑩ 宝とする所の者の異なるなり。

今仮に

きびだんご

子ども 示すとすると

⑪今 百金と搏黍とを以つて、以つて 靃人に示さば、

【仮定】

子ども きびだんご 取るだろう  
兒子は必ず搏黍を取らん。

つまらぬ人間 示すとすると

⑫和氏の璧と百金とを以つて、以つて 靃人に示さば、

つまらぬ人間 取るだろう  
鄙人は必ず百金を取らん。

つまらぬ人間 示すとすると

⑬和氏の璧と道徳の至言とを以つて、以つて 賢者に示さば、

真実を語る言葉 取るだろう  
賢者は必ず至言を取らん。

示すとすると

⑭和氏の璧と道徳の至言とを以つて、以つて 賢者に示さば、

真実を語る言葉 取るだろう  
賢者は必ず至言を取らん。

示すとすると

⑮其の知 弥 本質を見抜く能力  
そ が ますます 綿密 であれ そ 選ぶ ものは  
そ が ますます 綿密 であれ そ 選ぶ ものは  
其の知 弥 ますます 雜 であれ その選ぶ ものは  
粗 なれば、其の取るや 弥 精 なり。  
なれば、其の取るや 弥 精 なり。

⑯子罕の宝とする所の者至れ  
が もの 最高のものであつた  
もの は  
最高のものであつた  
は  
至れ  
り。」と。

矣……置き字・断定強調

どうして子罕の宝とするものは「最高」なのか?  
何も持たない以上の「持たない」ことはあり得ないから。